



しろうさぎ



S H I R O U S A G I

TAKE FREE

ご自由にお持ち帰りください



Contents

特集 Special issue

『小児・^{AYA}AYA世代への支援』

インタビュー

- チャイルドライフスペシャリスト.....黒崎あかね
- 小児科 教授.....竹谷 健
- 循環器内科 教授.....田邊 一明

●AYA世代(若者がん患者)交流会

- *プロジェクトM
- *在宅医療を支えます
～退院後訪問で在宅医療を支えます～
- *私のここだけの話
- *留学生の国自慢
- *イベントなどのお知らせ
- *ニュース&トピックス

子どもを信じて、持っている力を最大限に引き出す

チャイルドライフスペシャリスト ^{くろ さき} 黒崎あかねさん

プロフィール

看護師としてNICU、小児外来と救急病棟で8年間勤務した後、チャイルドライフスペシャリスト（CLS）の資格を取るために、2013年からアメリカへ。語学学校で学んだ後、CLSコースのある修士課程に入学。病院実習を経て、2017年の春にインターンを終え帰国。2017年10月CLSとして島根大学病院小児科に着任。



チャイルドライフスペシャリストはどんな仕事ですか。

病院にいる子どもの持っている力を最大限に引き出す仕事です。子どもは大人が思っている以上に結構できるんです。ちょっと声をかけたり手助けするだけで、できることがすごく増えます。医療的な優先順位に追われると、子どものペースに合わせるのが難しいのですが、子どもが楽に治療を受けられるようにすると、医療者も楽になる。CLSは両者の手助けをする仕事になるといいなと思っています。

実際には小児患者さんとどのように関わっていますか。

病院では、保護者に説明しても、子どもへの説明なしで検査や治療が始まることが多いです。知らない場所や知らない人、情報がないというのは大人でも怖いんですよね。

どうしても薬が飲めず、ゼリーに包んでも口から出してしまう5歳の子がいました。まず、その子には「この薬、なんで飲まないといけなにか知ってる？」と聞いて、薬は飲まないといけなことを理解してもらいました。その後、「飲めたらシールかスタンプしようか」と提案し、自分で決めるように促しました。スタンプをすることになったのですが、「遊びたい」と言ったので、遊んだら飲もうねという約束をして、一緒に遊びました。すると、一通り遊んだ後に、自分から「薬を飲む」と言ってくれたんです。

結局、噛んでしまいましたが、薬を飲めたので、笑顔でご褒美スタンプを押しました。その子は、この経験が自信につながり、それからは薬が飲めるようになりました。

体重計に乗れない子には、「まず触ってごらん」と言って触ってもらうと乗れたり、レントゲン室の写真を見せて痛くないことを説明したら、動かずに撮影できたということもありました。

小児患者さんに接するとき気を付けていることは。

なるべく、ちょっとでも「おはよう」とか声掛けをしています。あるとき、「いつも声をかけてくれてありがとう」というメッセージをくれた子がいました。仕事が忙しく、なかなか一緒にいることができなかった親御さんは、「この子は、こういうことがしてほしかったんですね。」と感激されました。

メッセージをお願いします。

子どもはちゃんと力を持っているので、子どもの話をよく聞く、子どもを信じるということを大切にしています。入院している子は、自分ができないと思こんでいることが多いので、「できるからやっごらん」、と声をかけ、こっちがやるのではなくて、対話をして、やらせてみて、成功体験を増やして自信をもたせる、それが大切だと思っています。



小児病棟プレイルーム

小児科から各診療科へ — AYA世代をサポートします

AYA世代とは

Adolescent and Young Adult : 思春期・若年成人 (15歳～39歳前後)

小児科 教授 竹谷 健



小児科と他の診療科の違い

一般的に、小児科で診る対象年齢は0歳～15歳ですが、いろんな条件で変わってきます。たとえば、小児がんの治療のプロトコール(手順)では、20歳まで小児科が診療します。

成人とは病気がまず違いますね。小児科では先天性疾患や希少疾患が多い。医学の進歩によって、先天性疾患も治るようになってきましたので、治ってからも長期のフォローアップが必要になります。

また、見たことのないような希少疾患も診ていかなければなりません。

小児科は子どもの総合医

小児科においては、主治医への依存度の高さが特徴です。患者さんを発達や栄養のことなどトータルで診ていくためです。また、保護者・兄弟の関わりが大きいので、家族のフォローも必要です。

成人になると、病気によって診療科が細分化され、本人の意思で診療を受けるようになります。小児から成人になる段階で、診療方法に大きなギャップが生じます。このことは世界的な課題となっています。

注目されるAYA世代

AYA世代がかかる病気は、案外、もともと少ないのですが、がんに限って言うと、女性では子宮頸がん、乳がんが多いです。その他のがんとしては、希少がんが多く、確立した治療法がないことが課題です。

また、AYA世代それぞれのライフスタイルによって、サポートも異なってきます。これまでは、高校生、大学生、子育て世代それぞれに十分な支援ができていませんでした。働き盛りのがんについても支援が必要です。

AYA世代に関心が高まっているのは、小児から病気を抱えながら成人期になる患者さんを支援していこうという世界的な気運が高まってきていることの表れだといえます。

「養育施設として全国初! AYAルームができました!」

家にいるような入院環境で、AYA世代の治療に対するモチベーションを上げたい、という小児科職員の思いから、島根県小児がん募金の支援を受け、NPO法人子ども健康フォーラムの協力のもと、小児病棟にAYAルームを設置しました。TV、ソファ、テーブルがあり、学習機のパソコンでインターネットもできます。書籍やコミックもあり、若年の患者さんが、自分の部屋のようにリラックスできるような空間になっています。



AYA世代(若者がん患者)交流会

当院の「がん患者・家族サポートセンター」では、がん患者さんやそのご家族の療養生活上の気がかりや、治療と仕事との両立に関する不安の解決に向けて、がん専門相談員が相談対応をしています。それと共に、がん患者さん・ご家族同士が「同じ仲間」として悩みや体験を語り合う場所として「ほっとサロン」が毎週月曜日(祝日を除く)10:00～15:00に開催されています。

あるAYA世代患者さんの「若い人同士が集まる場所がないですか?」との相談から、「ほっとサロン」の活動の一貫として「AYA世代交流会」を4月から不定期で開催しています。参加された方からは、「普通の友人にはできない話ができた」との声が聞かれました。39歳までに、がんに罹患経験のある方(男女を問わず)、気軽に話しをしてみませんか?

お問合せ先: がん患者・家族サポートセンター (TEL 0853-20-2518)

大人になってからも大丈夫

— ^{アヤ}AYA世代・成人先天性心疾患の診療をしています

循環器内科 教授 成人先天性心疾患専門医 ^{たなべ}田邊 ^{かずあき}一明



成人先天性心疾患を持つ患者さんの治療と管理

心臓に複雑な構造異常がある小児患者さんは、かつては長く生きられないことが多かったのですが、治療の進歩や循環器外科領域の手術の進歩で、患者さんの9割が成人となるという時代になりました。

そういった患者さんは現在、全国に約50万人いるといわれています。

先天性心疾患治療の際に、ある程度の修復がされたという場合は、完全に正常な心臓と異なります。慢性期として、一生背負っていくこととなりますので、少なからず管理もずっと必要となります。

小児科から診療科への移行

患者さんが成長していく中で、どのタイミングで小児科から各診療科に移行するかということが現在の課題になっています。

生まれてすぐ先天性心疾患の手術を受けた患者さんが、主治医を変えたくないということで、30代・40代になっても、こども病院にかかっているというケースもありますが、15歳から18歳までのどこかのタイミングで移行は必要になってきます。

小児科では、主治医は、親に説明をするため、子どもは自分の病気を知らないまま、思春期を迎え、成人して親元を離れることもあります。自分で治療の選択をしていくために、移行期の患者教育も必要になってきますね。

AYA世代が抱える問題

思春期以降には、ライフサイクルの局面ごとに、小児期にはなかった問題が浮上してきます。たとえば、就職ができるか、女性では、妊娠・出産が可能なのか、などの問題です。大人になって元々の病気の再手術が必要になることもありますし、年をとって生活習慣病などが出てきた場合には、複合的な医療が必要になります。

今後は診療科でチームを作るなどして患者さんを管理していく体制が必要になってくると思います。

専門外来で受け入れ体制も万全

この問題に対応しようと、昨年からは全国的にも体制作りが進み、当院は今年4月から日本成人先天性心疾患学会が認定する「成人先天性心疾患専門医」の修練を行う施設として山陰で唯一選ばれました。今後は、専門医の育成にも力を入れます。すでに、「成人先天性心疾患専門外来」を設け、受け入れ体制も整えていますので、安心して受診してください。



高齢になるにつれて、だれもがなりうる目の病気「緑内障」は、日本の失明原因の第一位である。緑内障の最新治療「チューブシャント手術」の症例数において、島根大学病院は全国でトップクラスを誇る。この手術の保健診療の実現には、国内導入のさきがけとなった若きエキスパートの理想と熱意があった。

3話連載

第2話

緑内障治療の道へ

トラベクトミー

京都大学ウイルス研究所で基礎研究をしながら、谷戸正樹は千原会千原眼科医院で診療をしていた。院長は緑内障治療の第一人者の千原悦夫医師であった。ある日、千原氏は彼に一つの示唆を与えた。「トラベクトミーの成績まとめてみたら?」

緑内障は、ゆっくりと視神経が萎縮し、失明に至る病気で、高齢、近視、高眼圧がその危険因子である。唯一進行を遅らせることができるのは、眼圧を下げることだ。「トラベクトミー（線維柱帯切開術）」とは、なんらかの原因で、目の中を循環する「房水」が排出できなくなり、眼圧が上がった状態を解消するため、眼球の外側から線維柱帯を切開し、「房水」を流出させる手術である。

千原氏に助言され、彼は急いで研究成果をまとめ上げた。「よし、学会で発表しよう」。背中を押された彼は、2000年に第23回日本眼科手術学会総会で初めて学会口演を行った。(谷戸正樹、千原悦夫「トラベクトミー+小切開白内障手術104例の手術績」)このトラベクトミー研究の経験は、後に大きく生かされることになる。

治療の救世主「チューブシャント手術」との出会い

このころ、千原医院では、すでに、国内でいち早く緑内障の「チューブシャント手術」を導入していた。チューブシャント手術は、眼にたまる房水を抜くためのインプラントを挿入する術式である。排水用のチューブを通して房水が流出することで、一般的な手術をしても眼圧が下がらない、または一度下がった眼圧が再び上がってきってしまった難治性の患者さんにも効果があり、安定した効果が得られるのが特徴である。

ただ、当時のチューブシャント手術は合併症が多く、有望ではあるが満足できる物ではなかった。そのため、日本におけるチューブシャント手術は長い間、個人輸入により確保されたデバイスに術者個人の責任で使用していたのだ。

このような状況の中、千原氏と谷戸はこの手術の治療成績をなんとかしてでも上げようと試行を続けていた。そして、満を持して、2000年1月に千原氏執刀で「血管新生緑内障に対するAhmed緑内障バルブの毛様体扁平部挿入」手術を行った。術後は、眼圧の経過も良好で千原氏は「これはいける」と確信した。

このとき、谷戸も確信した。「この手術が広まれば、難治性の緑内障患者さんを失明から救うことができる。」と。谷戸はこの日見た光景を深く心に刻むとともに、この手術を国内で浸透させる、と静かに誓っていた。

オクラホマへ

医師となって9年目、京都大学での研究員としての職務を終え、2004年から2年間、アメリカのオクラホマ大学へ留学し、ヘルスサイエンスセンター眼科研究員となった。この留学では「網膜光障害の機構」、「光ストレス応答防御機構」の解明等、大きな功績を残した。しかし、それにも増して得た「人生の宝」は、世界各地からの研究者との「良い出会い」であった。彼の親しみやすい人柄に、たくさんの方々が集まってきた。ここで得た交友は今も途切れることなく、彼の人生を豊かなものになっている。



研究者とともに(アルゼンチンにて)

〈次回予告〉

留学を終え、帰国した谷戸の新しい挑戦が始まる。発明!?国内実績1位!?凄腕の眼科医の活躍に乞うご期待!



退院後訪問で 在宅医療を支えます



退院後訪問

看護管理室 みよし ゆみこ
三吉 由美子

近年、高齢化により医療依存度が高い患者さんが増加し、医療処置を継続したまま退院となるケースが増えてしています。このような傾向を踏まえ、当院では、専門・認定看護師、入院病棟看護職等が、訪問看護ステーションの看護師、保健師と一緒に、退院後の患者さん宅を訪問する「退院後訪問」を開始しました。

入院中に関わった専門・認定看護師に加え、病棟・外来の看護師や助産師が、在宅主治医・訪問看護師等と連携を図り、協力し、退院後訪問をすることは、病気の再発や増悪（悪くなること）のリスク軽減や、在院日数の短縮、在宅医療の充実につながります。

当院は、急性期病院の役割を果たしながら、地域包括ケアの実現に向け、病棟・外来・在宅の連携を強化し、「退院後訪問」を行うことで、質の高い看護在宅療養支援と安心を提供してまいります。



私のここだけの話

「たかが子どものサッカー」



いしはら のりゆき
薬剤部 石原 慎之

1993年5月Jリーグの開幕と同時に、私は今までしていた野球部ではなく、サッカー部への入部を決めた。3年間、それなりに頑張った（つもり）。ただ、世の中は甘くなく、総体ではあっさり敗退、部活としてのサッカーは終わった。涙は出なかった。

年月が過ぎ、子どももサッカーを始めた。彼はかなりのめり込んでいったが、たかが子どものサッカー。ボールに集まって、みんなで蹴りあう、いわゆる団子サッカー。見ても面白いものではない。ただ、応援に行くと「どう動いたら良かったらうか」といつも真っ直ぐな気持ちで聞き、その後、練習につき合うことになった。彼はサッカーバカだ。ただ、不思議とそんな彼の試合を見に行く回数も多くなった。6年生最後の試合、張り詰めた空気の中で彼らはプレーした。終了の笛、倒れこむ子どもたち。私達、親のところへ歩いてくる彼に言葉が出ず、涙が出た。たかが子どものサッカーと思っていたのに、かなり入れ込んでいた自分がいた。



今回は**中国**の陳 摯（チン シ）さんに母国について紹介していただきました。

皆様、こんにちは。薬理学の博士四年生 陳 摯（Alex Chen）と申します。こちらで、出身地中国 広東省を紹介させていただきます。

広東省は中国東海岸沿いの南部に位置し、省内を流れる珠江は香港（ホンコン）に接しています。略称は「粵（えつ）」、春秋戦国時代（紀元前770年～221年）この地を統治していた「百越（粵）族」に由来しました。

広東人は、北京語と発音が全く違う（日本語漢字と北京語漢字の発音の違いぐらい）広東語を主要な言語として使っています、私にとっても母語です。広東語は、中国語の方言の一つですが、広い範囲で話されています。主に、香港と広東省で使用されていますが、そのほか、世界中にある中華街（サンフランシスコの中華街など）でも通用します。

1978年、広東省は中国全土に先駆け、改革開放政策を実施しました。以来、外資を誘致し、中国の重要な輸出、生産基地として経済発展を遂げてきました。GDPは1989年以来、連続全国第一位を誇っています。

商工業のイメージのほか、日本人にも馴染みの深い広東料理の発祥地として、一度や二度では堪能しきれないほど美食の都としても知られています。調理上の特徴は、野菜などの持ち味を生かした、薄味の炒め物や蒸し魚、スペアリブ、餃子などの蒸し物が基本ですが、土鍋で煮る「煲」（ポウ）や、叉焼などのロースト「燒」（シウ）、たれで煮る「炆」（マン）、くずれるほど煮込む「熬」（アーウ）などもあります。広東語である飲茶（ヤムチャ）、点心（英：Dim sum）やワンタンが、英語でも日本語でもそのまま外来語として使われていることから分かるように、中華料理の中では最も世界中に広まっています。よろしければ、ぜひ広東省や香港に旅行し、広東文化を感じてください。ありがとうございました。

薬理学講座
陳 摯
(チン シ)
さん



沖縄にて



広東料理

イベントなどのお知らせ

島大病院 ちょっと気になる健康講座

島大病院には、専門知識を備えた、医師をはじめとする様々な職種の職員が医療・医事業務に携わっています。

当院に来院される患者さんや一般市民の方の健康づくりにすこしでもお役立ていただきたいとの思いから、健康や医療に関するミニ講座を定期的に開催しています。予約不要で途中参加・退出も自由です。どうぞお気軽にご参加ください。

実施内容は下記のとおりです。

対象 患者さんほか一般市民 **場所** 外来1階 外来待合ホール

時間 11:00~11:30



回数	月日	担当	講師	テーマ
第272回	7月4日(木)	放射線部	山本 泰司	放射線画像検査で何がみえる?何がわかる?
第273回	7月11日(木)	栄養治療室	金山 友紀	コツコツ骨を守る食事
第274回	7月18日(木)	認知症疾患医療センター	長子由香里・新藤 舞	認知症疾患医療センターの役割ともの忘れ外来の紹介
第275回	7月25日(木)	皮膚科	太田 征孝	ほくろのがんの最新治療
第276回	8月1日(木)	産科・婦人科	原 友美	ちょっと気になる妊婦の話
第277回	8月8日(木)	肝臓内科	矢崎 友隆	今注目されるB型肝炎のお話
第278回	8月22日(木)	乳腺・内分泌外科	板倉 正幸	マンモグラフィの新しい技術「トモシンセシス」
第279回	8月29日(木)	看護部	三吉由美子	退院後訪問について
第280回	9月5日(木)	歯科口腔外科	松田 悠平	がん治療と口腔ケア
第281回	9月12日(木)	がん患者・家族サポートセンター	槇原 貴子	がんと共に歩むために～がん患者・家族サポートセンターでできること～
第282回	9月19日(木)	耳鼻咽喉科	青井 典明	緊急を要するのどの痛み
第283回	9月26日(木)	検査部	濱田智津子	血液検査のあれこれ

病院ボランティアコンサート開催予定

開催場所：附属病院1階外来待合ホール

開催時間：19時から

7月19日(金)
大社中学校 合唱部



8月9日(金)
アンサンブル4512

9月6日(金) 島根大学 邦楽部

9月20日(金) 出雲ロータリークラブ(出雲楽友協会)

島大病院 ちょっと気になる健康講座 放送予定 (出雲ケーブルビジョン)

令和元年7月放送

救命救急センター 准教授 瀧波 慶和

放送内容：
「熱中症について」



アフラック生命保険株式会社より おもちゃの寄付を受けました

6月4日にアフラック生命保険株式会社よりおもちゃの寄贈がありました。同社は、各地域の社員の歩数目標の達成率をもとに寄付金額を決定するウォーキングキャンペーンを毎年実施されています。全国の小児がん拠点病院及びがん診療連携拠点病院の中から、今年度は当院が贈呈先に選ばれました。

贈呈されたのは、鮮やかな原色とぬくもりのある手触りで人気のポーネルド社の木のおもちゃなど19種類です。ビーズ遊び、ブロック、柔らかいボールなど、親子や子ども同士で楽しく遊べ、知育効果も期待できます。おもちゃは小児病棟のプレイルームやだんだんハウスに置かれ、子どもたちを待っています。

ニュース & トピックス NEWS & TOPICS





島大病院 書籍のご紹介



第5弾

好評発売中!



島大病院・1年分の健康講座を

この1冊にまとめました。

島大病院

ちょっと気になる

健康講座5

Shimane University Hospital Lectures on Health

島根大学病院の
スタッフがわかり
やすく解説します。

心不全、病気、健康、 病院施設・検査機器のはなし

- ◆ 心不全とは?
- ◆ 子どもにもいる!“^{かけ}脚気”の話
- ◆ 今話題のオーラルフレイルとは?
- ◆ がん治療と仕事の両立について
- ◆ 災害時の医療 など

50
項目

監修・編集: 島根大学医学部附属病院

発売: 今井出版

A5判/並製本/168頁/オールカラー 定価: 本体 1,000円+税



編集後記



AYA世代—近年、慢性の病気のために、生活に不安を抱える若年世代の存在がクローズアップされています。

当院はAYA世代の患者さんが、治療しながら普通の生活ができるように継続的にバックアップしています。

赤ちゃん、小児、AYA世代から大人へ。そして高齢になっても。島根大学病院は患者さんにいつでも寄り添い、力になります。

【編集者より】

島根大学医学部附属病院広報誌

しろうさぎ
についてのお問い合わせ先



(このQRコードで携帯から島根大学病院ホームページが見られます!)

医学部総務課 企画調査係 広報担当

☎ 0853-20-2019

✉ mga-kikaku@office.shimane-u.ac.jp

🌐 <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>